

現代型抑うつ症候群とひきこもりを中心としたうつ病のフローサイトメトリー解析：うつ病のサブタイプと免疫細胞分布の関連を探索

松尾，敬太郎

<https://hdl.handle.net/2324/7363663>

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



(別紙様式2)

氏 名	松尾 敬太郎
論 文 名	現代型抑うつ症候群とひきこもりを中心としたうつ病のフローサイトメトリー解析：うつ病のサブタイプと免疫細胞分布の関連を探る
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 神野 尚三 副 査 九州大学 教授 須藤 信行 副 査 九州大学 教授 中島 欽一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

うつ病にはさまざまなサブタイプに分類される。新型／現代型うつ症候群(Modern-type depression : MTD)は、病的な社会的ひきこもりへの入り口といえる病態である。逆境の小児期体験 (Adverse childhood experiences : ACEs) もうつ病の重要な病因である。近年、免疫の不均衡がうつ病の生物学的基盤として提唱されている。そこで本研究では、末梢免疫細胞の分布がうつ病のサブタイプに関与している可能性があると仮定した。大うつ病性障害 (MDD) 患者21名と健常対照者24名を対象とした。採血から得られた末梢血単核球 (PBMC) の表面抗原をフローサイトメトリーで調べた。さらに、心理評価として、うつ病の評価尺度をPatient Health Questionnaire (PHQ-9)、Beck Depression Inventory II (BDI-II)、Hamilton Depression Rating Scale (HDRS) で評価し、うつ病の異なる表現型に関連するMTDの傾向 (Modern-Type Depression Trait Scale : TACS-22)、ひきこもりの傾向の自覚的質問票 (Hikikomori Questionnaire : HQ-25)、ACEs の評価 (Child Abuse and Trauma Scale : CATS)を実施した。MDD群はHC群に比べ有意にB細胞の割合が高かった ($p=0.032$)。MDD群では、以下の両群間に負の相関がみられた：PHQ-9とCD8 エフェクター記憶T細胞 ($r=-0.639, p=0.002$)、TACS-22と単球 ($r=-0.459, p=0.036$)、HQ-25とナチュラルキラーT細胞 ($r=-0.638, p=0.004$)、CATSと中間型単球 ($r=-0.594, p=0.009$)。これらから、現代型抑うつ症候群の傾向、ひきこもりの傾向、ACEsの傾向などのうつ病のサブタイプは、末梢免疫細胞の特異的な分布と相関することが明らかになった。本研究の結果は、免疫学的不均衡がうつ病の多様な症状に影響を及ぼす可能性を示唆している。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士 (医学) の学位に値すると認める。